

健康

質問

がんと診断されました。主治医から入院前に歯科を受診するように言われました。どうしてですか。

がんで入院前に歯科受診



青田 桂子

徳島大学病院口腔内科  
准教授(病院教授)

回答

口の中(口腔)には約600種類の細菌が存在し、歯垢1菌には約1億個の細菌が存在しています。身体が健康な場合であれば問題のない細菌も、がん治療によって免疫が低下すると、肺炎や創部感染などの合併症を引き起こし、治療を長引かせることがあります。

口腔は栄養とも深い関係があります。歯の数が減少し、食べ物をしっかりとかんで食べることができなくなると栄養状態は低下します。低栄養の状態が続くと体力や免疫が低下し、がん治療の妨げになってしまいます。

口腔は衛生と栄養の両方に関わる重要な器官です。口腔ケアをすることで手術後の肺炎や誤嚥性肺炎が減少し、手術後の創部感染も減ります。抗

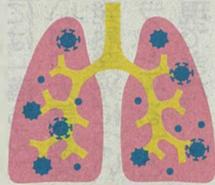
肺炎など合併症を減らす



がん剤治療や頭頸部放射線治療による口腔粘膜炎(口内炎)も軽減することが明らかになっています。

国はがん対策基本計画として口腔ケアを推進するために、2012年に歯科の健康保険に「周術

周術期口腔機能管理(口腔ケア)の効果



手術後肺炎 減少



手術創部感染 減少



抗がん剤・放射線による口内炎 軽減

**がん何でもクイズ**  
1981年から日本で死亡原因1位の疾患は何ですか。

①心疾患②脳血管疾患③がん

行こうよ！がん検診

期口腔機能管理」という制度を設けました。病気の診断から入院、手術・治療、そして回復までの期間を周術期とい

います。周術期口腔機能管理とは、周術期に歯科医師が口腔の衛生管理と、「かむ」「飲み込む」といった口腔の機能管理を行うことです。口腔を専門家が管理することで合併症の発生を減らし、栄養状態を改善させる効果が期待できます。徳島大学病院では医科からの紹介で、22年度は約1800人の患者に周術期口腔機能管理を実施したところ、以前と比べて術後肺炎の合併症が減少しました。

また、抗がん剤治療や頭頸部放射線治療時の口腔粘膜炎対策では、歯科でしか出せない口腔粘膜炎被覆・保護剤の使用により、口腔粘膜炎の痛みを緩和することができました。

口腔の健康は全身の健康につながるということが明らかになっています。がんと診断されたら、合併症を防いで治療が円滑に行われるために、ぜひ歯科を受診してください。

栄養状態改善効果も期待